

令和2年度 第3回 学校運営協議会 議事録（要旨）

- 1 日時 令和3年3月11日（木） 16:00～17:00
- 2 場所 校長室
- 3 出席者 喜田会長、乾委員、谷口委員、豊田委員、村田委員
檜崎校長、芥川教頭、石原事務長、黒田首席、新田首席
その他教員 4名

4 次第

- (1) 開会
- (2) 令和2年度学校経営計画及び学校評価について
- (3) 令和3年度学校経営計画及び学校評価について
- (4) 閉会

5 協議・意見交換

- (2) 令和2年度学校経営計画及び学校評価について

【質問なし】

【意見】

委員：4期生の卒業後の進路状況について知りたい。

教員：飲食関係の職種を選んだ生徒の一部に、職種の変更を余儀なくされた者もいたが、概ね希望どおりの進路決定ができた。就労にむけたレディネスができていない生徒は、福祉事業所等で訓練を積み重ねることになる。

委員：飲食関係が厳しいというのは、生徒側か企業側か。

教員：業績の悪化などで企業が採用を控えるケースがあったためである。

委員：コロナの影響で就職率は下がったか。

校長：4期生は46名が卒業した。定数に満たないのは転校や進路変更があったためである。就職率はコロナウイルス感染症の影響があったが昨年より上昇している。また3期生の定着率は、2名離職したが再就職をしており、100%であった。次年度、5期生については企業の動向が不透明なので、詳細な調査に向けた努力が必要であると考えている。

委員：就労に向けた意識が高まっていない生徒がいるということであったが、様々な形で実体験できる機会を増やしていくことが必要ではないか。

委員：今年度はオンラインでの授業等実施したようだが、リアルな体験との違いはあるのか、オンラインのメリット、デメリットとは何か。

校長：オンラインで企業見学会を生徒、保護者向けに実施することができた。10名以上で社内に入ることができないための代替手段ではあったが、企業に就職した卒業生と質疑応答や、異なる2か所の職場の様子を見学できたことなどメリットはあった。ただ、本来であれば現場に訪問することが一番良いが、現状でできることを色々と模索しながら今回のような形態で実施できた。リアリティにかける部分もあるが、良い部分は取り入れて活用していきたい。小中学校ではタブレット端末なども導入されているが、紙ベースの良さや併用しながらより良い方法を模索しているところである。今年度、スマートスクール事業の推進校に指定され、知的障がい支援学校では初となるVRゴーグルを活用した就労支援の研究を行っている。生徒の特性に

よって適さない場合もあるので、実態把握を十分にしながら取り組んでいる。

(3) 令和3年度学校経営計画及び学校評価について

【質問】

委員：OODAループとはどのような手法か。

校長：従来よく使われているPDC Aサイクルは、工場などで生産性を上げるために導入されてきた経緯がある。OODAループとは、観察、仮説、決定、実行というサイクルを繰り返すというフレームワークである。特にコロナウイルス対応で明確な計画を立てても、変更する必要があるときに、先の見通しが取れない状況でもスピード感をもって意思決定できるメリットがあり、企業での導入事例も増えている。

委員：検証するサイクルはあるのか。

校長：実行した後に観察するサイクルから再度始める。

【意見】

委員：数値目標として希望する生徒の就職率100%を目指すところがあるが、昨年度から変更した経緯は何か。

校長：大学等に進学する生徒がおり、都度生徒や保護者と懇談しながら進路指導を進めているが、本校は高等支援学校として本来企業就職を目指す学校であることを明確に表明するためである。

委員：就職に向かない生徒を切り捨てていることにはならないか。

校長：本校の生徒である以上、当然生徒と保護者と連携をとりながら様々な支援をしている。不合格者が多数いる中で、中途退学者をだすことは学校として非常に心苦しいものがある。

委員：出願者への周知などで対応するべきではないか。

委員：「すべての生徒が就労実現の進路目標を保護者と共有する」という文言があるので問題ないと感じるが。

委員：自分が就職に向いているか分からない生徒へどのように指導、支援しているか。

教頭：専門教科の学習や現場体験実習などを行いその都度振り返りを行うことをとおして、自らの適性や興味関心を理解できるようにしている。

校長：表現について疑義が生じるようであれば、昨年度と同様に改める。

(4) その他

【質問】

委員：PTAの活動実績を学校のHPで紹介できないか。

教頭：毎月、学校ブログに各授業や行事などの記事をアップするようにしている。PTA活動についても準備はできているので担当者を通じて掲載することは可能である。

校長：スマートスクール事業の推進校に指定され、VRゴーグルを使用した就労支援を行っているが、SSTの様々な場面設定ができる有効性が認められた。来年度は対象を広げ研究をすすめ、最終的な報告会などを実施する予定である。